

令和7年度 第4回会津若松市健康づくり推進協議会 会議録

- 1 日 時 令和8年2月4日（水）13：00～13：45
- 2 場 所 会津若松市役所本庁舎 4－1 会議室
- 3 出席者 委員13名（委員19名のうち6名欠席）
事務局：副市長、健康福祉部長、副部長、副部長兼健康増進課長、
健康増進課職員3名
（傍聴者：地元新聞社2社）

4 会 議

(1) 諮問

副市長（市長代理）より「第3次会津若松市食育推進計画」を諮問。

(2) 副市長あいさつ

(3) 会長あいさつ

(4) 議事（会長を議長として進行）

①第3次会津若松市食育推進計画（案）について

・事務局（副部長兼健康増進課長）より資料説明を行い、質疑応答を行った。

（補足：全体的に図表等は、印刷発注の際、受注業者と協議し見やすくなるよう精査する。

また、会津の食文化・郷土料理に関する記載内容を理解するに際して、イメージしにくいとの意見もあったので、具体例も挙げながら説明。）

【質疑応答】

各種団体委員：印刷時の受注業者と図表について修正検討するとのことなので、次の点についても忘れずにお願いしたい。

・計画案6ページの図2の凡例漏れ、7ページの図3のスケール修正検討など

事務局：ご指摘いただいた部分も含め、全体的に見やすいように見直する予定。

議 長：「こづゆ」について、会津の子どもたちは好き好んで食べるのか。

各種団体委員：大好きな子が多い。中には「木耳」を箸でよける子がいたりするものの、具材がたくさん入っており、好きな子が多いようだ。

保健医療団体委員：秋田出身のため「きりたんぼ」を自宅で作るが、子どもたちは好きで食べるし、郷土料理への理解も深まっている。会津の子どもたちの「こづゆ」作りについても同様と考えており、小さいうちから触れた食文化の経験が、将来会津を離れても会津の食文化を広めることに繋がっていくと思うので、ぜひ「こづゆ」作りを体験する子どもたちが増えて欲しい。

議 長：その他、特に意見等がないようであれば、原案通り了承する方向で、本日中に答申まで行うことにしても良いか。

（委員）：異議なし

- 議長： ご異議なしとのことであり、本案件は承認とし、計画の「(案)」を削除いただき、後ほど答申の時間を設けることにしたい。
なお、自由意見になるが、会津若松医師会ではスマートシティ会津若松（ヘルスケア分野）に介入しているものの、基盤となる都市OSへの加入が市民の3割程度と聞いている。ぜひ、委員の皆さんもICTを活用して健康づくり推進のための情報を普及いただければと考える。
- 事務局： スマートシティ会津若松を有名にしたのは、全国に先駆け都市OS「会津若松プラス」を導入したからであり、市民以外の方も加えると加入者はもう少し増加しているが、まだまだ利用されていない方が多い。
「会津若松プラス」では除雪車の稼働状況確認や、専門医の本協議会委員にも協力いただいている高血圧モニターなどのサービス利用ができる。市、医師会、アクトコンソーシアム（民間企業団体）などによる官民連携の都市OSであり、市民に限らず市民以外の方も利用可能となっているので、ぜひともご利用いただきたい。
- 保健医療
団体委員： 補足になるが、計画45ページ下の枠内の「オベシティ・スティグマ」のコラムを監修した。肥満に対する差別・偏見という意味で、前回の会議においても申し上げたが、食生活や生活習慣の改善努力をしても、ホルモンバランスなど体質や個人差により肥満解消に至らない方が一定程度存在し、その方々を食育の取組ができていないと一方的に決めつけてしまうのは偏見であることから、一概に肥満への偏見を持つことなく、医療が必要となる肥満症への正しい理解も必要という内容としている。
- 事務局： 専門医の本協議会委員に原稿依頼したものであり、信憑性を高めるためにも氏名掲載いただくことは可能か伺いたい。
- 保健医療
団体委員： 社会通念上の一般論として掲載した方が良いとの認識でいたので、氏名掲載までは必要ないと考えるがいかがか。
- 議長： 「会津若松医師会」として掲載するのが良いのでは。
- 保健医療
団体委員： 「会津若松医師会」のほうが良いと思う。
- 事務局： 「会津若松医師会」として掲載させていただく。

※議事終了（議長解任）

5 閉会

【閉会后：「第3次会津若松市食育推進計画」答申】

会長より、健康福祉部長（市長代理）へ「原案のとおり承認する」旨を答申。